

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		平成17年度		根拠法令・規程等
事業開始年度	平成17年度			
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	
	中項目	基本施策	01 未来を支える人材を育むまちづくり	
	小項目	施策	02 小・中学校	
事務事業名		11	学校図書館運営事業	問担当課(室) 学校教育課 職・氏名 学事係長 磯本宏幸 電 話 0869-64-1840

事業の実施	
対 象 (誰・何に対して)	備前市立小・中学校の児童生徒及び教職員
目 的 (何のために)	児童生徒の読書意欲の向上と読書習慣の育成。学校図書館の環境整備。
行 政 活 動 (どのような方法で)	各学校に学校図書館司書を配置し、読書活動の推進を図るとともに、児童生徒の活用意欲が高まるように学校図書館の環境整備を行う。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	児童生徒の読書習慣を形成し、読書に親しむ児童生徒を育成することで、豊かな心の醸成を図る。

事業の実績					
実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
小・中学校図書館司書雇用時数	時間	13,216	13,216	13,216	
学校図書館司書雇用人数	人	7	7	7	
学校図書館司書配置校数	校	19	19	18	
活動					
実績					
直接事業費	千円	14,431	18,354	19,171	
必要人員人件費		0.05人	0.02人	0.02人	
事業費		540	216	100	
事業費計		14,971	18,570	19,271	
国 県 支 出 金					
受 益 者 負 担					
財 源					
市 入 金 債	千円				
そ の 他 ( )					
一 般 財 源		14,971	18,570	19,271	
受 益 者 負 担 比 率	%				

結果指標名					
結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績	
総雇用時数	時間	13,216	13,216	13,216	
対 前 年 比	%	100.0%	100.0%	100.0%	
活 動 コ ス ト	円	14,971,000	18,570,000	19,271,000	
単 位 当 たり コ ス ト		1,133	1,405	1,458	
配置人数	人	7	7	7	
対 前 年 比	%	100.0%	100.0%	100.0%	
活 動 コ ス ト	円	14,971,000	18,570,000	19,271,000	
単 位 当 たり コ ス ト		2,138,714	2,652,857	2,753,000	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
図書館司書の配置率 配置人数/図書館司書配置校数	目標値(A)	0.5	0.5	0.5	0.5
	実績値(B)	0.37	0.37	0.39	到達目標年度
	達成率(B/A)	74%	74%	78%	
成果指標設定の考え方・式や説明					
現在、図書館司書の配置が2校に1名と3校に1名が混在しているが、他市等の状況から2校に1名程度の配置を行うことで、より充実した指導が可能になると考える。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
市の関与の 妥当性 必要性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	判定理由・課題認識 学校教育における読書活動の重要性及び児童・生徒の学習活動に与える効果が話題になっており、学校の読書環境を整備することは、児童生徒の教育をすすめていくうえで非常に重要なことである。したがって、これを目的に図書館司書を配置することは、未来を支える人材を育てるために本市が関与しなければならない事業であるとする。	
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明	
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 各学校からの聞き取りによると読書環境の整備の飛躍的な充実や読書に親しむ児童生徒の増加など、効果が上がっている。	

平成21年度の状況										
目標値	結果指標量①	13,216	結果指標量②	7	成果指標量	0.4				
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了			
説明	人員増についての学校からの要望は強いが、平成21年度は、市の財政状況を踏まえ、現状維持での事業実施となっている。児童・生徒の読書活動の充実のためには重要な事業であり、今後重点化していくことを考えているが、当面は現状維持で実施し、担任を中心とした各学校の取組や各学校が実施している読み聞かせボランティアの活動と併せて児童・生徒の読書活動の充実を図ってほしい。									

総合評価		評価区分<A~E>
児童・生徒の読書習慣を培い、豊かな心を醸成していくために大きな役割を果たしている事業であり、今後、更なる充実が求められている事業である。学校においても評価が高く、図書室の環境が一変し、読書に親しむ児童・生徒が増加したとの声が各校から上がっている。事業費はほとんどが司書の賃金であり、コストの増減が雇用条件の悪化となることから、効率性を追求することが困難である。		

平成22年度以降の方向性・内容							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	さらなる充実を図るべき事業ではあるが、他事業の優先性を考慮するとき、現状を維持していくことが妥当であるとする。ただし、市の財政状況の好転等の状況があれば、増資を図りたい。						
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果			
効率性		現在もっている読み聞かせボランティア等の積極的な活用を学校に呼びかける。	平成22年度	学校図書館司書との連携により、児童生徒の読書への興味関心を高めることができる。			